【 会 議 録 】（概要）

日　時	令和４年６月１６日（木）　午前１０時３０分～１６時００分
会議名	越谷市立小中一貫校整備事業における第４回越谷市ＰＦＩ事業者選定審査会
場　所	越谷市中央市民会館４階　第１６～１８会議室
議　題	１　報告事項 （１）第３回事業者選定審査会の議事要旨について （２）事前質問事項に対する入札参加者からの回答について （３）最優秀提案の選定手順について ２　協議事項 （１）入札参加者のプレゼンテーション及びヒアリング （２）最終審査 （３）最優秀提案の選定 （４）答申（案）の検討
出席者	【委員】 積田会長、柳澤副会長、髙橋委員（３名） 【事業所管部】 学校教育部　青木部長、五十嵐副部長兼学校管理課長 学校管理課　杉田調整幹 学務課　磯山課長兼小中一貫校整備室長 小中一貫校整備室　岡田主幹、石堂主幹、コンサルタント５名（１１名） 【事務局】 行財政部　永福部長、野口副部長 公共施設マネジメント推進課　山梨課長、堤調整幹、並木主幹、梅津主事（６名）
資料等	別添のとおり
内　容	会議録（要旨）のとおり

●決定事項等

- **越谷市立小中一貫校整備におけるＰＦＩ事業者の最優秀提案については、答申書のとおり決定する。**
- **本事業におけるＰＦＩ事業者の最優秀提案にかかる審査講評については、協議内容を踏まえ、後日確定するものとする。**

会議録（要旨）

司会：公共施設マネジメント推進課　山梨課長

1　開会

2　報告事項

（1）第３回事業者選定審査会の議事要旨について

・議事要旨について、資料２に基づき事務局から説明を行った。

質疑・応答

なし

（2）事前質問事項に対する入札参加者からの回答について

・入札参加者からの回答について、資料３に基づき事務局から説明を行った。

質疑・応答

なし

（3）最優秀提案の選定手順について

・最優秀提案の選定手順について、資料１に基づき事務局から説明を行った。

質疑・応答

（委員）　各委員からいただいた再評価に関して、何かあるか。

（委員）　前回の会議の中で、水準については確認をした。また、追加質問の回答内容も拝見して再評価したが、適宜調整したい。

（委員）　この後のプレゼンテーション・ヒアリングについて、進行は事務局のほうで進めて、各委員から適宜質問という形でよろしいか。

（委員）　質問に関してはあまり調整しないでよい。

（委員）　事前質問で理解できた部分もあるので、本日のプレゼンの中で何かアピールポイントがあって追加で聞きたいと思ったら、そこを聞ければと思っていたので、事前調整はしてなくてもよい。

（委員）　今日のプレゼンで何か気になることがあれば質問させていただく。

（委員）　今後実際に運営していく上で気になる点があればというところで、特段事前の質問は用意せずにいく。

3　協議事項

（1）入札参加者のプレゼンテーション及びヒアリング　KS-Y グループ

・応募者から２０分間のプレゼンテーションを行った後、各委員からのヒアリングを行った。

質疑・応答

（委員）　小中一貫校としての空間構成の特徴として、蒲生の場合は[redacted]というのも挙げられているが、昇降口は中学校と小学校、[redacted]にあって、その[redacted]をどういうふうに構成していくかというか、しつらえていくかという話と、面積的に非常に狭い気がするので、その辺どうお考えかというのを伺いたい。

（応募者）　[redacted]のしつらえということで、今昇降口に面している豊かな[redacted]取っていて、そこの部分についても豊かな空間になっており、[redacted]というのを設けることで、昇降口に向かう子供たちが小中で一緒に登校する姿が学園構想の趣旨であると理解しているので、[redacted]を含めた全体を学校の顔として捉えている。

しつらえについては、今後どのような形でそのスペースを豊かにしていくか、例えば既存樹木を大事にしたいということで、[redacted]を入れるということになっていて、そこは協議になっているので、今後その辺りも市と協議をしながら、より豊かな空間を構成していきたいと考えている。

（委員）　中学校の昇降口について、大階段で気持ちいい空間ができると思うが、既存の小中学校でも結構大きい空間があると非常に暑くなったりして、その辺のいわゆる空調というか、環境をどうするかというのは、どういうふうにお考えか伺いたい。

（応募者）　大階段については、確かに空気の逃げ道としては、上に空気の熱だまりというのも考えられるので、[redacted]を設けていて、熱い空気が外に抜ける、[redacted]を利用しながら、校舎全体の自然換気をスムーズにするという効果を期待している。

また、教室内の空調に関しては、冷たくした空気等がほかの場所に逃

げないようにすることで省エネという対策を取っていきたいと考えている。

[redacted]で明るくすることで、大階段が非常に有効な空間であると思っている。

（委員）　交流の場としては結構大きい空間であり、雰囲気がよくなるとは思うが、その空調をどうするというのは結構大きい問題だと思う。

それからもう一点。普通教室とワークスペースの間の間仕切りが、重たくて非常に動かしにくいということで、[redacted]にするという回答をいただいているが、音の問題はどう解決されたのか。

（応募者）　[redacted]については、これまで何十年[redacted]の実績があり、今の利用状況を確認する中で、音環境もしっかりするというふうに実績のある仕様になっている。[redacted]

教室使用として実績のある[redacted]を使うことで、音環境についても十分な対応ができるというふうに考えている。

（委員）　[redacted]なのか。

（応募者）　[redacted]ではなくて、基本的に一部は開放することで、通風経路を確保しようと思っているが、現在のパースではそこまで対応できていない。

（委員）　それでは、登下校と昇降口との関係について、[redacted]理由と、それから[redacted]

その辺の登下校と昇降口、あと各教室へのアプローチについて、考えを再度まとめていただきたい。

（応募者）　登下校の昇降口を分けた理由について、要求水準で大規模校になるので、小学校と中学校の児童生徒が一斉に移動してくると混雑し、その周りの動線も混雑するということで、分散配置することが要件にされている。その中で、小学校が手前に、グラウンド側にしようとしているので、そこへの移動のしやすさを考慮すると[redacted]で、奥のほうに中学生の移動スペースがあるので、[redacted]移動しやすいということもあり、位置はそのように決めている。

登校動線等の関係について、今学区の編成、学区から考えると、東か

らも西からも子供たちはやってくるということなので、[redacted]を一体で学校の顔として、そこでまず子供たちを小中学生関係なく受け止めて、その交流部分を通してそれぞれの小中という昇降口に入っていく計画として提案させていただいている。特別支援学級については、少し奥まった位置にあるのは承知しており、特別支援学級の中でも[redacted]ように配慮はさせていただいている。それ以外の小中の特別支援学級については、ほかの教室とあまり距離が変わらないのではないかと思っている。

（委員）　今度は内部の小学校と中学校、それから昇降口を合わせて、それぞれの教室への動線もある程度分けられているということで、あまりその辺が子供たちの交差はないのかと思うが、一方で特別教室は小中で全部まとめているということで、そこでは少し動線的には一緒になると思うが、その辺に関して特段廊下、よく同じ場所であってもそれぞれの小中で別なアプローチをするみたいな計画的な判断もあるかもしれないが、小中が別々に使い分けできるような考えがあるのか。

（応募者）　昇降口に関しては、登下校とかグラウンドへの移動で一斉移動が発生するので、混雑するというふうに想定している。一方で、教室移動に関しては、小中共用ゾーンのここに[redacted]というのを設けていて、この意図は小中の交流を妨げようとか一緒に活動してはならないということではなくて、体格の小さな小学校低学年の子供から、高学年ではかなり体の大きな子もいるので、[redacted]になっている。[redacted]に捉えて計画している。

（委員）　特に廊下幅を少し確保したということではないのか。

（応募者）　[redacted]

[redacted]

（委員）　最後に教室について、小学校と中学校で考え方を変えられているというか、[redacted]。小中一貫校であると、特に小学校の高学年と中学校の１年生で、小中をまたいで少しずつ新しい学年区分ができるようなこともあるが、特に小学校の中でも低学年と中高学年の違いとか、中学校はあまり変わらないかもしれないが、１年生と２、３年生の違いで、少しオープンスペースの使われ方も変わってくると思うが、その辺に関して何か配慮というのがあれば伺いたい。

（応募者）　今回の要件では各学年の位置を決定しないと、それから学年の増減がどの段階でどう変わるか分からないので、どこでも同じように使えるようにしてくださいという中で計画をしている。一方で、可動間仕切り壁とか[redacted]を開閉することで、教室周りの環境、使い方というのは自由に変えられると思っているので、低学年ではある程度[redacted]を閉じて音の干渉、子供たちの出入りをある程度制限しながら授業を行ったり、中学校に近くなってきたら、もう少しオープンで興味関心を引くような一体的に利用できるような空間というふうに構成を変えていけるようにするために、中学校側も[redacted]で構成することで、そこの違いをできるだけなくしていこうということで、今回はあえて提案させていただいている。

（委員）　主に企業体として、この事業の遂行の部分に関してですが、提案書の本体のほうでリスク管理についての提案という項目があり、そこでいろいろリスクに対する基本的な考え方とか、様々想定しているリスクに対して、それぞれ対応策を講じてご提案していただいているが、本事業を遂行するに当たって、また今のこの経済状況などを踏まえて、特に重点的に対応しなければならないというふうに考えられているリスクと、そこに対する御社の提案の中に組み込まれている対応策について考えを伺いたい。

（応募者）　特に留意すべきリスクという点では、物価の上昇リスクだと考えている。物価の上昇については、スライド条項があり、スライド条項に沿った前提としている。設計施工期間がかなりあるので、提案時と着工

時のものと比較して、その差を調整というのが大前提で行っており、一方で、発注方法については、確定した時点で早め早めに発注することで、長ければ長くなるほど物価上昇のリスクが高まるということを避けたいと考えている。物価上昇が一番のリスクだと考えている。

それ以外については、実施体制のところで地元ができることは地元が行うこと、地元ができないところ、経験が少ないところ、これについては経験豊富な会社が入っており、ただし、このチームの最大の特徴は、地元が主役であるということで、結局のところは補完、補強。しかしながら、単なる補完、補強ではなくて、事業の実施の確実性、あるいは安定性、継続性、そういったものは確実に担保しなければいけないので、比率は小さいが、実績のある市外企業がしっかりと補強する、補完するという前提で、リスクは準備段階で一つ一つ潰していきたい。

（委員）　川柳学園のほうのプランで、敷地の配置上、トイレとか、あと教員等の、体育館とメインの教室というのがある意味一体的につくられているということで、[redacted]とか通風とか、あと採光等は、廊下部分はどうしても暗くなると思うので、その辺は環境的な対応についてもし補足等あれば伺いたい。

（応募者）　今回敷地等の関係で、日影規制の中で既存校舎は不適格な中でできるだけコンパクトに北側から離さなければならない、それからその中でもグラウンドを広くし、非常にコンパクトな計画をさせていただいている。[redacted]廊下が暗く感じないように、見えるところが明るくなると全体が明るく感じるというのは人間あるので、そういったところで工夫しながら、このコンパクトの中でもいい環境をつくっていきたい。

（委員）　トイレの臭気等も廊下側には来ないというようなことか。

（応募者）　臭気については、外部に必ず出すような計画とする。

（委員）　図書館も[redacted]の環境の考え方について再度お聞かせいただきたい。

（応募者）[redacted]

（委員）[redacted]

（応募者）[redacted]

（委員）　防災関係について、受電設備、キュービクルを[redacted]具体的にはどのぐらいか。

（応募者）[redacted]。

・入札参加者のプレゼンテーション及びヒアリング終了。
　選考結果は、後日郵送する。

（1）入札参加者のプレゼンテーション及びヒアリング　KS-S グループ

・応募者から２０分間のプレゼンテーションを行った後、各委員からのヒアリングを行った。

質疑・応答

（委員）　蒲生のほうの[redacted]川柳のほうの[redacted]。空間的には大変面白いと思うが、小中一貫でいろんな年の子供たちがいて、音の問題はどうするのか。人が集まれば集まるほど活性化するし、コミュニケーションを取りやすいという意見がある一方で、やっぱり相当な音が発生すると思う。その辺はどういうふうに解決するか。

（応募者）　まず、建築的には、[redacted]に考えている。

（委員）　ワークスペースの考え方について、[redacted]

（応募者）[redacted]

（委員）[redacted]メリットというのをお話いただきたい。

（応募者）　教室の温熱環境の安定化だったり、先生方の管理のしやすさという点でいくと、廊下側のワークスペースというのは、先生方の認識としては割と共用部分をお借りしているみたいな認識になりがちで、かなり意識を高く持って管理していかないと、なかなか単なる広い廊下になってしまうというような事例をよく聞いている。[redacted]

[redacted]

る。

（委員）　実際はどういうようにしていくかというのは、具体的に進めていく中で決まるのか。

（応募者）　これは、本当に運用方法によると思うので、その辺は今後どちらでもチョイスはできると思う。

（委員）　[redacted]、どうなのか。

（応募者）　メリットとしては２つあり、[redacted]な計画として、ここにやはり何かポイントがないと、なかなか解けないという収まり上の問題。

それともう一つは、[redacted]今回要求水準書でも例えば他学年の子がこっちを廊下みたいにして通るのを避けるようにというような要求もあったので、[redacted]アクセントになればなというふうに考えて、このしつらえとした。

（委員）　子供というか、児童生徒のアプローチに関して、[redacted]その辺の問題というのは何かないか。

（応募者）　既存の小学校もそういった[redacted]運用をしているので、[redacted]いうふうに考えている。

（委員）　雨のときとか[redacted]が少し混乱するのではないか。

（応募者）　[redacted]

[redacted]

（委員）　[redacted]バリアフリーの動線というのは、１階でもしけがをしたとか階段を使いにく[redacted]い場合には、どういうふうに行けばいいか。

（応募者）　エレベーターか階段となる。

（委員）　その子は別の動線を通らないといけないということになるのか。

（応募者）　今の状態では、そういうことになる。

（委員）　車椅子というのはそんなに想定されないと思うが、毎回階段を使いにくいシチュエーションになって、そのたびに別の動線を通らなければいけないのが気になった。

（応募者）　それは、今後見直せれば見直していきたいというふうに考える。

（委員）　それから、特別教室に関しては、[redacted]理由というのは何かあるのか。

（応募者）　[redacted]

（委員）　中学校側の理科室は、[redacted]で連携していないので、最初から小学生ゾーンのほうの理科室というのもあったのではないかと思った。

（応募者）　ぜひ連携をしていただきたいという願いを込めた。

（委員）　ワークスペースの考え方で、[redacted]アイデアとして面白いと思うが、そうなるとワークスペース側の壁というのは、これは可動間仕切りになるのか。[redacted]

[redacted]

(応募者) [redacted]

(委員) [redacted]

(応募者) これは運用方法による。[redacted]その辺は協議していきたい。

(委員) [redacted]、これはあくまでも教室の拡張として可動間仕切りを使えるように計画されているのか。

(応募者) 可動間仕切りとしては、[redacted]

(委員) [redacted]複雑な仕組みになってくる感じがする。

(応募者) 我々が要求水準書を解釈しまして、これが要求されているのかなということで、[redacted]

(委員) それだけの間仕切りを全部そこに集約できるのかと思った。

(応募者) それは収まり上、検証した。

(委員) リスク管理体制についてのお話について、管理体制といいますか、リスク管理に関する考え方について伺いたい。全国のリスク事例も共有しながら対策を取りますというお話がある中で、この本事業を遂行するに当たり、重点的にどういったところがリスク、最も重点的に対応していかなければならないリスクと考えられているのかというのと、それに対してどのように対応していただける予定、計画になっているのかというところについてのお話を伺いたいのが１つと、セルフモニタリング体制のところで、モニタリング委員会の開催等のお話で、そういうセルフモニタリングの中で何がしかのリスクが顕在化したとき

の対応の仕方についてもう少し具体的にお話を伺いたい。

（応募者）　初めのリスク管理の件で、本事業においてどういったリスクを想定して、どう対策してきたかというところについて、今建設工事については、資材の調達リスクや、ひいては法定遵守のリスクもあるので、本事業においても決して長い施設整備期間ではないので、設計期間と工事期間をいかに遅らせずに計画するかというところは、提案時もかなり何度も打ち合わせして練ってきたところで、落札後においてもさらに注意していかなければいけないことだと思っている。

スケジュール管理ということがリスク管理の１つ目ということで、基本的にいろんなところで事業をやっており、当社のグループは非常に大きなグループになるので、資材調達力という点では、広範なところから調達ができるというところがある。あとは、物入れということをできるだけ早めに決めていくということが建設を遅らせないということでとても大事なところだと思う。フロントローディングという形で設計の皆さんと行政の皆さんと協議をしながら、できるだけ早めに物を決めて１回目に発注するというところでスケジュールの管理をしていきたいというふうに考えている。

コストについても同様の考え方で、早めに調達するということ、これがコストオーバーランしないということの１つ目になり、設計の皆さんと行政の皆さんと協議し、ご提案している内容から少し物を変えたり、いろんな工夫をしながらコスト内に収めるということをまず大前提としたいというふうに考えている。もしそれでもどうしようもなくなったときには、再度協議させていただくという条項も契約条項にあるので、こちらのほうは対応できればというふうに考えている。

まとめると、リスクの部分としてはやはり建設期間中、ここが最大のリスクだという認識で、ここをしっかりしなければいけないということが１つ、それから竣工後については、学校なので、運営というのは自治体さん、学校さんの主体というところで、我々としては維持管理のところをしっかりしていかなければいけない。維持管理の中では、早め早めの対応をしながら長寿命化をしていく、これのモニタリングというのが非常に重要というふうに思っている。

もう一つのお話は、モニタリングの、同じく起こったときの洗い出し

等々のお話について、ＰＤＣＡサイクルというのは一般的な考え方はあるが、まずは現場でのリスクの検出、これを日次の管理を月次でしっかり押さえながらモニタリング委員会に上げていくというところで、早め早めにしっかり押さえていくというところが重要だと思っている。この図の中で一番あってはならないのはＳＰＣの継続性ができないことだと思っているので、この持続体制ということで様々なセーフティーネットをつくりながら進めていくというふうに考えている。

（委員）　２つ目のところで、事前のリスク管理のお話、どのようにしていくかというのは理解したが、実際モニタリング委員会で定期的に、毎度常設しているわけではないので、定期開催になっていると思うが、例えば事故になりそうな手前とか、いろんな程度があると思うが、何かリスクとして非常に高い確率で顕在化しそうだとか、実際顕在化してしまったとか、そういった事象が生じた場合の初動というか、対応としてはどのように動かれるのか、体制としてどのように動かれる計画になっているのかというところを教えていただきたい。

（応募者）　モニタリング委員会については、[redacted]で、市との打合せも月に１、２回は行うことになっているので、その時点で設計段階でも建設企業も代表企業も維持管理企業も基本的に参加する形で、リスクが顕在化する前から可能性がありそうなところは潰していくという形に運用上はなると思うので、顕在化させないための対策も取って、顕在化する予兆が感じた時点でＳＰＣ内でも解決を図り、市ともご協力させていただき、本件についてもそのように進めていきたいと考えている。

（委員）　災害時の特に電気設備での設置に関して、[redacted]のか。

（応募者）　[redacted]

[redacted]

（委員）　蒲生学園の[redacted]について、何か魅力的な空間だと思うが、[redacted]と思うので、ここにあえて置いた理由は何か。

（応募者）　計画的には、職員室というのが小学校、中学校別々にこの平米数必要であると、その職員室からは児童生徒の通学路をちゃんと監視できるような位置関係でなくてはならないといったような、条件によってプラスアルファとして[redacted]どこが適切かなというのを考えた結果になり、開放的過ぎるというところはある。[redacted]

（委員）　暑い、寒いでいうと、川柳のほうの図書館とか[redacted]は非常に開放的で魅力的なのだが、[redacted]気温差がすごく出そうで、その辺はどういうふうにうまくコントロールされるのか。

（応募者）　まず、空調計画として、[redacted]、そういった工夫を行う。

・入札参加者のプレゼンテーション及びヒアリング終了。
　選考結果は、後日郵送する。

（２）最終審査

・最終審査について、前回の書類審査及びプレゼンテーション・ヒアリングを踏まえて、各委員で意見交換を行った。

感想・意見

（委員）　ＫＳ―Ｙの最初のほうは丁寧に受け答えていた。あとプレゼンテーションがある程度ポイントに絞ってやっていたので、比較的分かりやすくできていたと思う。一方で、ＫＳ―Ｓのほうは、絵は多いが少しフォーカスし過ぎていると感じた。基本的にはそれほど２社、そんな大きな差はないと思ったが、ＫＳ―Ｓのほうが[redacted]とか、非常に見た目はいい分、やや詰めが甘い部分もあるかなという感じはしたので、若干オーソドックスだけれども、やや手堅いのがＫＳ―Ｙのほうで、意外と学校としては魅力的だけれども、もうちょっといろいろ技術的な検討が必要かなと思うのはＫＳ―Ｓのほうと感じた。ややそういう印象を受けたが、それほど大きな差はないかなというふうには思っている。

（委員）　事前評価から大きく変わるところはないと思ったが、やはり書面審査で後者のＳのほうはきれいにつくられていてすごく読みやすい一方で、よく読むと結構一般的概念説明で終わっている部分もあった。逆に書面を前者のＹのほうは少し書き足りなかった。ちょっともったいない書類の作成の仕方をされているなとヒアリングまでを含めて聞いていて感じた。

本日のヒアリングを受けて、Ｙのほうは代表企業が地元企業ということで、かなり意気込みをグループ会社全部に行き渡らせるというような感じがあるのと、リスク面からの話を聞いた際、かなりきちんとした意見を持って答えていただいていたというのがＹのほうで、一方、Ｓのほうは独立して全社マネジメントを中心にやっていきますよという位置づけだからなのか、少しそこの代表企業の役割が実際このグループでやっていただく場合に、どう統率を取っていただけるのかというのは少し気になるところで、受け答えを受けての感想を持った。

デザインに関しては、どちらも使いやすいようには見えるので、維持管理にどうはねてくるかというのはやはり注目すべきところであり、そういう意味ではデザインもよいが、比較的効率的な管理ができるよ

うなデザインがいいと思った。後者のＳのほうは、見た目はいいが、維持管理していく、日常生活をしていくときの利便性はどうかというのが少し気になった。

あと財務面、若干両者の提案で差は出ていて、比較的長期間にわたるプロジェクトであるがゆえに予備費をある程度持たざるを得ないというのは、これは容認せざるを得ないこと。そういう面で事前質問の中で、市がやる場合の想定コストからどのぐらい効率化を見込んでいるかという質問をさせていただき、市が実施するよりは効率性が見込まれているということなので、そこは両者なかなか金額の差だけで差をつけにくいので、一定程度の効果はあるだろうということで考えている。

（委員）　ＫＳ―Ｓのほうについて、確かに[redacted]など、いろんな提案はあるが、具体的にそれをどうつくっていくかというところ、あるいはワークスペース[redacted]の提案が、実際はなかなか後で現場に投げられてもという、その後どういうふうに計画を進めていくかという進め方は、結構後で苦労する感じがした。それから、特にデザインとして小中学校らしさみたいな感じがあまり受け取れなかった。ＫＳ―Ｙのほうは、いろいろサーベイもしてあり、それを反映して、堅実にまとめられているような感じがした。最終的にはこれを案として、実際にはこれから具体的に形を詰めていくと思うが、ＫＳ―Ｙのほうは若干リアリティーがあるというふうに思った。

・プレゼンテーション後の評価表を各委員より回収した。

（３）最優秀提案の選定

・最優秀提案の選定について、各委員からの評価表を回収後、事務局にて集計し、開札結果を含めた集計結果を事務局より各委員に説明をし、協議を行った。

説明・協議

（事務局）　各グループの性能評価点の算定結果は、まずＫＳ―Ｙグループの性能評価点の合計は364.50点。

次に、ＫＳ―Ｓグループの性能評価点の合計は322.00点。
なお、落札者決定基準に基づき、性能評価点は小数点以下第３位を四捨五入している。
各グループの価格評価点の算定結果は、まずＫＳ―Ｙグループの価格評価点は135.95点。
次に、ＫＳ―Ｓグループの価格評価点は152.11点。
続いて、総合評価点は、性能評価点と価格評価点の合計とし、総合評価点が最大となった提案を最優秀提案として選定する。
各グループの総合評価点の算定結果は、まずＫＳ―Ｙグループの総合評価点は500.45点。
次に、ＫＳ―Ｓグループの総合評価点は474.11点。
順位はＫＳ―Ｙグループは１位、ＫＳ―Ｓグループは２位となり、最優秀提案はＫＳ―Ｙグループとの結果となった。

（委員）　入札価格（価格評価点）というのはどういう計算式になるのか。

（事務局）　落札者決定基準に掲載をしており、それぞれの、今回の総合評価ではなく絶対評価となっている。200点満点というところで、それに対して係数を掛けて、それに基づいて計算をしている。

（委員）　その他特にご意見ないようなのでこの内容で最優秀提案としてよろしいか。ＫＳ―Ｙグループが１位ということでいかがか。
⇒異議なし

（４）答申（案）の検討

・答申（案）の検討について事務局より答申（案）の説明をし、委員への確認を行った。

質疑・応答

なし

決定事項

・越谷市立小中一貫校整備におけるＰＦＩ事業者の最優秀提案については、答申書のとおり決定する。

4　答申

・審査会委員を代表し、積田会長から青山副市長へ答申を行った。

5　その他

・今後のスケジュールと審査講評（案）について、参考資料、選定審査会開催スケジュール（案）に基づき、事務局から説明を行った。

質疑・応答

なし

決定事項

・本事業におけるＰＦＩ事業者の最優秀提案にかかる審査講評については、協議内容を踏まえ、後日確定するものとする。

6　閉会

・柳澤副会長から閉会の挨拶